

藤沢記者クラブ各位

オンライン平和学習プログラム「ピースネット」の開催について

藤沢市では、次世代を担う子どもたちに、核兵器の恐ろしさや戦争の悲惨さを学ぶ機会として、例年この時期に、長崎市より被爆者の方をお迎えし、市内の小中学校において「被爆体験講話会」を実施しています。被爆75周年を迎える中、今秋は、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、高齢化する被爆者の方をお迎えすることが困難であるため、新たな試みとして国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館が提供する、オンライン平和学習プログラム「ピースネット」を、市内公立中学校2校で実施します。普段から、平和学習に熱心に取り組んでいる2校の生徒の皆さんがインターネット会議システムを活用し、被爆者の方の生の声を聞き、被爆の実相への理解を深めます。



国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館 HP より

(1) 藤沢市立善行中学校

日時 10月14日（水）14時15分～15時15分

会場 体育館

対象 中学1年生 147名 担当教諭 安岡 千絵里

【講話者 山田 一美（やまだ かすみ）氏】（公益財団法人長崎平和推進協会 継承部会員）

爆心地より2.3kmの路上で被爆。国民学校6年生（12歳）だった。突如、真夏の太陽より更に明るい閃光に包まれ、ものすごい熱さに死を覚悟したが、幸い岩陰にいたため怪我もなく無事だった。自宅近くの溝に祖母・叔母と家族3人で身を潜めながら、黙々と、破れた衣服で、怪我をして、杖にすがって、同僚の肩を借りて、幽鬼のように歩いて行く被爆者の群れを見ていた。原爆の無差別性、非人道性を知ってほしい。

(2) 藤沢市立明治中学校

日時 10月15日（木）14時～15時

会場 体育館

対象 中学2年生 191名 担当教諭 里見 昭

【講話者 丸田 和男（まるた かずお）氏】（公益財団法人長崎平和推進協会 継承部会員）

当時県立瓊浦中学校の1年生（13歳）。爆心地から1.3kmの銭座町1丁目の自宅で被爆。倒壊した家の下敷きとなり、重傷を負いながらも助かる。母死亡。中学校の同期生300人中約100人が原爆の犠牲となった。現在も後頭部から背中にかけて、約50箇所のガラス傷が残る。

※講話者のプロフィールは、公益財団法人長崎平和推進協会のホームページより引用しております。

*この資料に関する問い合わせ先

藤沢市役所 企画政策部 人権男女共同平和課

担当： 田代・古谷

内線： 2134

直通： 0466(50)3501